

日 時 平成25年12月3日（火）16時～12月4日（水）18時

撮影場所 真鶴半島番場浦海岸、修善寺虹の郷 撮影対象 名勝三ツ石の日の出、古木、紅葉

指 導 山口高志先生

山口高志先生の現地指導による撮影会を年間予定以外に企画し、8名のメンバー（当初申込み10名中2名がご都合で不参加）が、3日（火）16時大船駅に集合し、太田会員の車で真鶴半島を目指して出発した。この日は民宿潮騒新館に泊まって、新鮮な魚料理、おいしい酒と温泉を楽しんだ。

4日（水）朝起きて空を見上げると、前日の天気予報の「朝は曇り、後晴れ」に反して満天の星空で、期待に胸を膨らませた。5時30分に車で出発し、5時45分番場浦海岸近くの駐車場に到着した。やがて山口先生の車が到着し、準備を整えて海岸に向かう石段をライトを頼りに降りた。海岸では最適な撮影位置を求めて、ごろごろとした岩の上を注意深く進んだ。この日は大潮で打ち寄せる波が足元に迫る場面もあった。大きな岩の上を撮影場所と決め、撮影の準備を整えて夜明けを待った。左手に真鶴岬の崖、正面に三ツ石を眺め、太陽はその少し左手に上がる位置である。水平線付近には霞のような薄い雲があり、上には小さな雲が浮き、上は青空という舞台仕掛けで待っていると、やがて雲が赤く染まりシャッターを切り始めた。山口先生からは、ホワイトバランスや時々刻々の露出補正について助言があった。デジタルカメラとフィルムカメラでは、露出補正が全く違うことも知った。色付きが段々濃くなり、6時35分ころ太陽が顔を出した。薄い雲の層のお陰で、クッキリしているが濃い赤色で、ギラギラしない良い状態で撮影できた。少し日が昇ると手前の海にきらきらと輝きが映り、これを入れたりして撮影を続けた。また波が打ちつける岩も被写体になった。日が昇ってここの撮影を終わり、車で少し移動して巨木の撮影に向かった。

ここは徳川幕府が御用林として木を育ててきた林で、古い木が今も大切に保護されている。この中に樹齢800年といわれる楠の巨木があり、朝日の中、太い幹の上に緑の葉が広がって輝いていた。この木を広角レンズで見上げて撮影した。撮影位置、ピント合わせ、露出補正、光の良い部分を狙う構図などの助言を聞きながら各人いろいろと考えて撮影した。ここの撮影を終わり8時半に宿に戻って朝食を頂いた。朝食後9時半に再び車で出発し、伊豆半島の修善寺を目指した。

修善寺付近で富士山が、前景の奥にクッキリと見える先生お勧めの場所に車を止めて、構図をあれこれ工夫しながら撮影した。先生から上空の巻雲も入れて富士山の高さを表す構図の指導もあった。先生の撮影されたモニター画像を何度も見せてもらうことが勉強になった。車を進めて12時に虹の郷に着いた。

虹の郷に入園するころから雲が増えてきて時々日差しが遮られた。日本庭園近くのレストランで昼食を取った後、近くの紅葉林の小道に歩を進めた。先日の寒さと強風で紅葉の状態が心配されたが、ここの紅葉は良い状態であった。色付きの美しい木が色々ある小道の上で、どこを狙うか先生の指導を受けて立ち位置、構図を決めた。先生は前に進んだり、後ろに下がったりベストな位置を吟味しておられた。狙いを決めた後もほんの少し左右に動くだけで結果が変わることも示された。先生が撮ってモニターで見せられる絵はきちんとして不用意な部分は一切なかった。これを参考に自分なりの構図を狙った。このころは雲っていたが、薄曇りは紅葉の撮影には適しているとの指導だった。ただ曇り空を紅葉の背景に隙間に入れないように注意深く構図を決めることを指導された。逆に曇り空のボケを紅葉の背景に入れる方法も指導され試してみたが、なかなか先生のような美しい写真は撮れなかった。小道を進み美しい木を見つけては撮影を続けた。上に古民家があったが、周辺の紅葉は過ぎていて絵にならなかった。会員の一人はこの写真で入選、展示されたとのことであった。この後西伊豆海岸に移って夕景を撮る予定であったが、雲が厚くなってきたので諦めて、午後3時にここの撮影を終わりにして帰路につき、午後6頃に大船駅前に到着して解散した。

今回の撮影行は太田さんの提供、運転して頂いた車のお陰で実現し、深くお礼申し上げます。夕景撮影が実現しなかったことは残念ですが、素晴らしい日の出が撮れたこと、他では紅葉が終わりつつある中、良い紅葉風景が撮れたことは大きな収穫でした。参加者皆さまのご協力に感謝致します。山口先生が指導をしながら自ら撮影される姿は、慎重、丁寧で粘り強くプロの撮影に改めて感銘を受けました。

Photo by Tanaka

